

教育と産業

産業教育研究連盟

第四卷 第五号

内容目次

- 言論の自由を確保するために(巻頭言)
技術の学習指導法の探求……磯部 喜代三
第五群中心研究協議会記事
(深沢ヤエ子・西尾幸子・上村英他)
生徒生活協同組合の実践……安達 宮一
問題工員群像(その一)……後藤 豊治
機械学習指導案(2)……吉田 元
学年始めの感傷・連盟だより

5



言論の自由を確保

するために

封建時代には、幕府どころか、地方の大名に意見を申し出ただけで、その本人はもとより一家一族の生命が危険であった。そのことが、いわざる、きかざる、みざるの三猿主義の国民性を作り上げた影響は大きい。今もなお、その根はたえているとはいえない。

これは、あらゆるばあい権力者に必要だったのである。国民がいたいことをいったでは、支配する人たちには都合が悪い。だまってしまう通りになる方が治めやすいのであるが、生きた人間の口を封ずることは、明かに人間の体の機能の一部を殺すことであり、その発達を退化させることになる。そうしたことは、近代社会の人間尊重の立場からは許されないのである。

ところが、明治になっても、形をかえた言論圧迫が久しくあとを絶たなかった。天皇を神に祭り上げることによって絶対制をしいたのもそれである。新教育の開拓者であった故沢柳政太郎氏は、教育勅語をよみちがえたという理由で、貴族院で問題になったほどであ

った。またあまり多くの人には知られていないが、新聞を出すには、一定の保証金が必要であり、雑誌も図書も、そして日々の新聞も発行毎に一々内務省へ届出て、役人のお気に召さないものは発行を禁止された。

○ こうした中で、多くの言論の自由を主張する人の犠牲があった。それは国民全体のために戦ったのである。しかし戦争は、言論の圧迫を一層甚しくし、沈黙することが「愛国」だとされ、天皇絶対制は軍部によって、益々強化された。いかめしい言葉の「勅語」や、「訓旨」のみが、言論の自由をほしのままにした。それは生きた人間の言葉でも文章でもなく、上からおさえるための「重石」にすぎなかった。

私たちが多くの同胞や財産を犠牲にして、わづかにとりもどし得たものは、言論の自由だったといってもよい。それは外から与えられたものではなく、当然あるべき姿にかえったことに外ならない。もしそうでなかったら混乱はもっと甚しかったであろう。

○ ところが、最近になって、国民を一つの方

ながらも、しようこりもなく頭をもたげようとしている。先の吉田内閣でも試みられたが鳩山内閣もその例にもれず、まづ教育三法案を出して、その足がかりとし、放送法案でNHKを少しづつしめ上げようとしている。

人間の言論には雑音もある。立場によって都合の悪いこと、痛いこともある。しかし、国民の意志発表の道は、それより外にはない残された道は直接行動だが、それはいけないとすれば言論を少しでも封ずることは、人間を窒息させる前提となる。

われわれが、あげてそれに反対せずにはいられない理由がそこにある。

○ それと共にここで提唱したいことは、沈黙は金ではなく鉛だということである。それには長い間に退化した、私たちの発言の方法をとりもどさなくてはならない。むだのない言論のしかた、人のいうことを聞きわける力、文章による表現の習慣と、その方法などを、意識的に修練しなくてはならない。殊に最も適確に文章をかく方法と自己の主張の表現のしかたには、もっとも努力されなくてはならないし、その機会をつかむように、切望せずにいられない。

言論の自由を確保するためには、自らが言論を自由に表現する方法と力を、十分に養い持つこと、それをゆがめないで正しく論ずることが何よりも大切である。(T)

技術学習における指導法の探求

磯部 喜代三

一般教育における技術教育は、我国においては未開拓な分野であるといつてもよい。もちろん、戦前から手工教育や工作教育が課せられていたのであるが、理論的にも、実践的にも、十分に発展してきているとは言えない。

戦前の伝統的な手工芸の域を脱しなかった手工教育が、ドイツのパウハウスなどの影響による構成教育の余波を受け、科学性、合理性といふことについて反省されるようになり、その教育内容についても産業との連関を検討しようとする傾向にあったのであるが、不幸戦争の勃発によって中断し、あるいは戦時色に塗りかえられてしまったのである。当時のこうした新しい工作教育の方向に、私は興味と期待をもったのであるが、遂に応召の身となり、その後の経過を知ることができなかった。

戦後、中学校の新教科として課せられるようになった職業科の性格が、いわゆる実業教育的立場、作業科教育的立場、職業指導（試行課程）的立場の三者を並列的にならべて規定づけられたこと、そして其後の改訂においても、これらの系統から、いくばくも出ていないものであったことは、今まで幾度も指摘されたところである。過去のそうした技術教育の基盤の上には、到底これら三者が統一、

揚棄され得なかったのも無理からぬことであつたかも知れない。新制中学発足当時、この教科を担当した私たちは、その初めから種々と感つたものである。

現場においては、これら三者の何れかに重点をおいて実践されたのが実情であろうと思われるが、個々の生徒が学びとったことに対して、厳しい批判と反省を加える時、その真価は明白となることであらう。つまるところは、方法と原理と施設の貧困である。

本校における職業科の経営もまた、試行課程を基点として出発したものであった。実業教育的な立場は、新制中学校の性格よりして妥当なものではないと考へたのである。私達の経験してきた実業科の教育は、工業科といつても、機械・電気・木材工芸・応用化学などと分化して設置され、現在に比較すれば相当な設備を持ち、しかも実習費は公費によって賄われるという恵まれた条件にあってさへなおかつ当時の目標を十分に達成し得たとは考へられなかつたことから、それを現在の中学校に求めることは、無理だと考へたのである。

ところが試行課程の実習としても、その学習内容の選定や学習方法の原理的なものを明確に把握することが困難であつた。そこで

ともかくも、生産技術の基本的なものについての経験と理解を与えることが必要であると考へ、昭和二十三年度に設定した内容の要項はつぎのようなものであった。

一、工業に関する学習

A 実習 1 製図 2 木工を主とする工作 3 金

工を主とする工作 4 機械の分解、組立

5 電気に関する工作 6 コンクリートを主

とする工作 7 印刷 8 化学工作

B 工業常識（原料、機械、形態、我国工業の動向等）

二、商業に関する学習

A 経済の知識（経済のしくみについての理解）

B 実習（模擬実践により文書、記帳の機能を理解させ、その

処理技能を習得させる）

1 取引に関する文書の処理 2 取引に関する記帳処理

三、農業に関する学習

耕地を得ることが全く不可能なので除外せざるを得なかった。

これらは教材の系列と生徒の発達段階に応じて、学年に配当された。もちろん発足当時の中学校には、何の施設もなく、ただ普通教室一室と古い工作台が与えられたのが何よりも幸であった。丁形定規を作らせたり、折台や謄写印刷器の自作、あるいは古自転車の蒐集など、実習施設を整えるのに、今から考へると笑いごとではない苦勞をしたものである。

時にはグループ毎に異なった仕事をさせたり、一学級の半数に実習をさせるなど、足りない設備を活用するのに苦肉の策を講じたもの

である。施設、設備の充実は今日もなお現場の悩みであるが、それにも増して大きな悩みは、日々の実践に去就する学習効果への疑問。一人一人の生徒に、私たちは一体何を与えることができたか、そしてそれは彼等の将来においてどの様に発展することができるのだろうか、要するに、効果的、合理的な学習指導の展開は如何にすればよいかという問題である。

またこれに先行すべき教科の基本的性格や教育内容については、今までに多くの疑問や問題点を持ち、そしてこれらは、到底、一人や一学校の研究で解決出来る問題ではなかった。産業教育研究連盟による一連の研究や、また再度にわたる審議会の建議による本教科の再検討は、本教科をして真にあるべき姿に建て直すべきものであると信じ、現場の私達も新たな希望と勇氣を感じている。

こうした状態において、私は実践を通して、いかにすれば技術学習を効果的になし得るかを探究してきた。従って極めて断片的であって、体系的でなく、指導法というには、あまりにお粗末ではあるが、何等かの参考になれば幸であり、大方のきびしい御批判を希う次第である。

なおこれは、私の経験を基礎にしたもので、工業関係の技術学習に限られている。農業方面、商業方面については、自ら別ものが考えられるのではないかと思う。

一、技術に対する考え方について

ここでは、いわゆる技術論を展開しようとするのではなく、またそうした教養も、私には十分持ちあわせていないので、今までに理解し得た範囲で、特に技術教育をする上に大切だと考えた点を二、三列挙してみたいと考へる。

(1) 技術は主観的な人間の意欲の客観的な実現であり、したがってそこには主観的な契機とが含まれている。そしてこの主体の客体への働きかけには、当然客観的なもの、自然的法則に適合しなければならぬものである。一般技術教育においては、この人間の主体性というものを強調したい。と同時にこの主体の客体に対する働きかけは合目的、合理的でなければならぬことである。

この人間の主体性というものが考慮されない限り、技術による人間形成は、到底果し得ないのではないかと考えられる。分析された要素的な技術や作業の中には、この主体性は極めて微弱なもののようにも思える。しかしこれらの要素的なものが集積されて、或一連の技術の系統となる時、この人間の主体性な精神が、明らかに感得されるのではないかと思う。

私たちが実習を指導する場合の単位は、要素的な技術や作業であり、この指導においても、生徒が主体性に働くような考慮がなされなければならない。往々にして教師が主体となり、生徒が他の道具と同様、生きた機械となつて、教師の命ずるままに動くような指導を行っていることを、私自身も経験し、反省させられるのである。

つぎにこれらの要素的な技術が、個々バラバラに習得されても、それは部分的な作業の訓練におわり、所詮は職務的訓練の域を出ない。一連の技術の系統としてまとまりのあるものでなければ、近代の基礎教養としての技術的精神を培い難いであらうし、また技術の社会的、経済的理解を得させることも困難であらう。

しかしながら問題は、このまとまりのある技術のブロックを、どのようにして構成するかということである。ごまかしのない指導をやり、実質的な効果をあげるためには、内容は最小限度でなければ

ならない。

技術における合目的性、合理性ということも指導上重要なことである。生徒が道具を持ち、対象に働きかけるには、どのような過程をとることが望ましいかということである。試行錯誤的な方法が決して合理でないことは明白である。

(2) 技術は歴史のかつ社会的なものである。

技術の社会的歴史的法則を示してくれるような技術史、そしてそれが中学校の生徒たちにも理解できる内容に編集することができたらば、これは技術教育における有力な資料となるであろうと考える。それは一つには、技術の社会的経済的理解の学習に、今一つは教育内容を更に厳しく選定する一つの根拠となると考えられる。

二、指導上の諸問題について

現場における指導上の問題は、各種の条件が錯綜し、一律に解決できないものが多いのであるが、ここでは一応つぎの諸点について考えてみたい。

(1) 教育内容に関する問題

技術教育が単に分析された要素的な技術の修練でおわるものでなく、近代的な教養を育成する一端になうものであることを示す為にも、特に教育内容の示し方について私の希望を述べてみたい。

戦後のいわゆる経験主義教育における学力は、主体的能動的に、生活現実を切り拓いていくための学力であり、実践的性格のものであるとされてきた。また問題解決学力や基礎学力が云々され、学力低下の問題が話題に上った。これらは要するに経験主義教育のもつ主体的契機の過大と、客体的契機の過少評価の理論構造によるものであると指摘されている。過去の職業科の教育内容を考えても、客

觀的に系統的なミニマムエッセンシャルズの規定は輕視されていたようである。

広岡氏の所説によれば、学力の構造は、下層に個別的知識、技能中層に一般的或は法則的理解を、上層に行爲的態度をおかれている建議案に示された教育内容はA技能及実践 B、Aに関する知識理解、C、国民經濟および国民生活に関する知識、理解として表わされ、Aはいわゆる要素的技術によって示されている。これらは何れも前述の個別的知識、技能に該当するものであると考へるのである。基礎的技術の習得はこの教科の一目標になっているが、習得された基礎的技術のすべてがそのまま、生徒の将来に於て直接に役立つものであるとは考へられない。これら一連の技術の中にひそむ法的なもの(労働力・労働手段・労働対象の諸關係)が理解され、(学力の中層部)更にこれが技術的実践的な態度(上層部)にまで高められて、はじめて完全な学力となるのではないだろうか。また個別的知識の段階における社会的、經濟的知識も、個々バラバラのものでなく、技術と関連したままとまり、その故に私は技術史的な知識が最も適當ではないかと考へるのであるが、こうした知識の中から特に生産關係についての法則的な理解を得させる。

この理解においては、基礎技術の習得によって得られた生産力の法則的な理解が有効な助けとなる。具体的な現象を通してのこれら生産諸關係に対する一連の法則的な理解が、現実の産業や經濟を正しく理解する視点となることを予想するのである。以上は継続的な実践の裏づけを持たない私の希望的な観測に過ぎないかも知れないが、一部の試みにおいて、例えば機械技術を主とするような技術史の学習においては、無味乾燥な職業情報的な学習に比べ生徒の興味

や関心は高く、またその度合も彼等の技術学習の深淺に比例するようである。

学力の中層部とも考へられる法則的な理解が、それぞれの群、基本的分野について検討され、理解すべき最低のものが設定されるならば、こうした点からも、習得すべき個別的技能はもっと整理できるとも知れないのである。

(2) 学習の過程における生徒および教師の活動に関する問題

生徒の活動において自主的になさせることの大切なことはいうまでもないことであるが、技術的な行動の特質とその指導について考へてみよう。

技術的な行爲においては、設定された目的を果すために、直接的に行動に移るまでに、とられるべき行動に対する思考が行われる。

この場合、用具、機械等の労働手段が、全く未知、未経験のものであれば、その機能や、使い方が理解されなければならない。多くの場合、これら用具の使い方については指導の一単位として行われる。また技能的な練習の要するものは、そのことだけで、ある程度の時間をかける必要もある。何れにしても始めての用具を使用する場合には、正しい使い方についての明確な理解は与えておかななくてはならない。複雑な機能や、多くの機能を持つ用具については、段階的に、学年別に分けて指導するのが適切である。また使用法を大体会得した場合、適当な機会を捉えて、用具の機能に対して批判させるような着眼も大切である。現在用いられている木工用具など実に非近代的な要素を多分に持っている。学校における設備も、能うる限りより能率的なものを充実にしていくべきである。

更に用具や機械をもって働きかける対象の性質、作用構造、区分

等についての理解がなければならぬ。つぎにこれらの理解の上に立って、どうすれば一番よいかという思索が始められる。これは観念的、主観的な解決の過程である。この場合、既有的経験や知識を基礎にして解決できるものもあれば、新しい知識や経験が与えられなければ解決できないものもある。この思考が最も合理的に行われる為には、事態の分析と判断が適確に行われなければならない。この判断の基準になるものが自然科学、社会科学の法則である。生徒の理科学習に於て習得されるべき自然の法則が、単に文字の記憶にのみよったものであると、このような場合の具体的現象に演繹させることが困難であることを感じさせられる。

示範や技術的な知識は、このような過程において、生徒の思考を援助するものであるが「これは、こうするものだ」というきまつた型を強いると、彼等の主体的な活動を停止させる。解決のヒントを与えるといった提示の仕方が望ましく、指導のステップを克明に記録することによって反省することが出来る。またこの行動の仕方の観念的な形成において、対象と用具と、身体的な動きの三者における合理的な方法を求めなければならない。かくて合理的な行動の仕方が主観的に形成されると、始めて直接的な行動に移る。

技術によっては主観的な技能の面、(それは目と手とがうまく共応するや否やというような身体的機能の習熟であると考えられ、近代的な技術といわれるもの程、こうした技術的な習熟が不用になるのではないだろうか)の修練が伴わなければ、正しい結果を得ることができないが、正しい反応を示した場合、その主観的な行動形成の理論の正しかったことが実証されたのであり、もしそうでなかった場合には、吟味を加えて修正しながら正しい形態を成立させる。

このようにして労働と用具と対象の間における客観的な法則性が認識されるに至るものと考ええる。

オペレーションの一つ一つにおいて、このような思考と実際行動が繰返えされて仕事が完成する。実際問題として、指導の全過程において、このような指導を行うことは至難である。が少くとも重要なポイントについては綿密に行う必要がある。小学校における指導が全く放任の状態である現在、一年生の段階では、衝動的、本能的な行動をとる生徒が多く、漸進的に、気長に、こうした態度を育成していく心懸けが必要であると思う。指導票を使用することも試みたが、余り効果的でなかった。生徒の理解の程度に合わなかったのである。内容も図示的なものを多くとり入れ、理解し易いものとして一年生から徐々に、これを活用する態度をつけなければならぬと考えている。とにかく、技術の教育は、できる限り間口を狭くし、一歩一歩確実に進めなければ効果の上らないものである。

一つの要素的技術が一度の学習によって、その法則的なものが理解されるとは思えない、幾度か所を変えて出てくるような仕事の選定や、指導の計画が必要であり、またどうしても一度しかやれないものについては、主観的な行動形態の形成について、読む・書く・考える・話す・などあらゆる方法を講じることが必要であろう。

学習計画は勿論教師によって立てられるものであるが、学習の当初において、生徒自らによって、作業や研究事項の予定を立てさせることも必要で、これも一年生の初めから綿密な計画を立てさせることは無理ではあるが、漸進的に指導する。

三、学習環境に関する問題について

施設設備の内容は、教育の内容に、管理の方法については、学習

や指導の能率に関係がある。これについては、学校によって事情が異なり、一般的なことは言えないので、本校に於ける現在までの実情について述べてみよう。

工業関係の用具や施設の管理については、最も悩まされる点であろうと思う。本校においてもいろいろな方法を試みたのであるが、使用頻度数の多いものは、開架式が最も能率的である。時期的に使用するものは、その都度、開架出来るようにする。これは生徒が持出したり、格納したりするのに無駄がなく、教師の点検にも便利である。実施の当初においては、研損や紛失も若干あったのであるが新入生に対しては、初めに用具、施設の取扱や、学習の態度に重点をおいて指導しておけば、なかば習慣化し、二、三学年においてはそうした点に殆んど気を配らなくても済むようである。工具の破損率と技術指導の徹底さとは反比例する。それは教師の指導技術のバロメーターである。

本校の工作室は、普通教室を改造したもので、廊下を取り入れて廿八坪これに四坪の準備室。これに工作機械類九基と金工バイス十台、木工作台十台、糸鋸機四を入れ、一坪程度の火造り場及び研台を設けてあるので、全く余地のない室であるが、しかしまだまだ工夫すれば利用する処があると考えている。もちろん、生徒の收容する人員は三十五、六人で、この点も一般には通用しない方法であるが、五、六十人の生徒を一度に学習させては、教師の目の届かぬことが多い。

特別教室の利用については、教育計画や時間割編成においても考慮を払い、この工作室も一週三十五時使用している。昭和二十二年から出発して八年目でやっと現在の状態にまでこぎつけたのである。

る。しかし決してこれでおわったわけではなく、充実しなければならぬもの、合理化しなければならぬものが多分にある。

些細な事であるが、タイムスイッチ付ベルを設け、五分前の予鈴がなる様にし、安心して時間一ぱい生徒の中に入って指導できるようにしたのも有効な方法であった。また教室にはコンセントが二つしかなく、受信機組立を計画したが、ハンタごての電源に困った。天井に針金を張り、コードをはわせてテーパータツプで分岐し、十本のハンタごてを使えるようにした。ともかくも何とか工夫すれば通ずる道のあることを感じるわけである。

少ない設備を活用する方法として、いわゆるゼネラル、ジョップによる方法がよく用いられるようであるが、本校においても、発足当時、木工、金工、電気、印刷と四種のグループを作って、二カ月交代で課したことがある。しかし、これは矢張り無理である。既習していて殆んど指導を要しないもの、或は基礎的なものについては既習し、指導票のみで学習できるもの、一、二種と新しく学習するもの一種の組合せが限界ではないかと考えられる。

現在、本校ではドライバーの製作にこれを適用している。木工旋盤が一台なので、金工旋盤も木工用として使用し、柄の部分を作するグループ、刃の部分を作するグループに分けて実施しているなおそれでも、進度の速いもののために製図の課題を用意してある

以上私としての、技術学習の指導法を探求してきた過程と現状を述べたのであるが、全く意をつくさない点が多くない。更に残された問題と共に、今後研究を重ね、系統だったものにまとめていきたいと考えている。不十分ではあるが、一応これで止めておくことを諒とされたい。(大阪市立大池中学校)

第五群中心研究協議会

予告した通り、去る三月三十一日、四月一日の両日、東京都砧中学校と宿舍東急修学旅行会館で、第五群（家庭）中心の研究協議会を開催しました。学年始めを前にして集りは多数とはいえませんでした、それだけしくり語り合うことができました。

第一日は午前十時から大森和子氏から、文部省の指導要領改訂案について、委員としての立場から話され、正午までそれについての質問討議をし、午後は大森氏を座長にして家庭科の本質や運営について協議し、午後三時半から吉田元氏に、ミシンの分解修理の実地講習をうけました。

夜は七時から、宿舍の広間でテーブルを囲んで話しあい、翌第二日は午前中、文部省案による具体的なカリキュラムについて、討議をつづけましたが、残念ながら正午で閉会しなくてはなりませんでした。外は春にしては冷たい雨が降っていましたが、会員の熱はいつまでもさめないようでした。後から寄せられた感想をつぎに掲げて、その状況をのりて頂くことに致します。（編集部）

出席者氏名

秋田県仙北郡六郷中学校	島山 育	同 西淀川区歌島中学校
岩手県水沢市常盤中学校	千田カツ子	同 埼玉県教育委員会指導主事
新潟県南魚沼県塩沢中学校	上村 英	同 教育研究所員
同 五十沢中学校	戸田 浪江	宮城県教育委員会指導主事
群馬県館林市渡瀬中学校	高橋 武	北海道大学助教授
同 邑楽郡板倉町西中学校	立沢 トイ	東京工業大学助教授
埼玉県浦和市原山中学校	根岸 正昭	国学院大学助教授
山梨県南巨摩郡甲南中学校	若田 せつ子	東京工業大学助教授
東京都世田谷区砧中学校（長）	鈴木 ヤエ子	文部省事務官
同 奥沢中学校	田中 花子	群馬大学助教授
大阪市都島区桜宮中学校	林 まさ子	国学院大学助教授
		川崎市御幸中学校
		東京都砧中学校
		産業教育研究連盟幹事長
		池田 種生
		中村 邦男
		稲田 茂
		村田 忠三
		吉田 元
		鈴木 雄
		長谷川 淳
		後藤 豊治
		清原 道寿
		籠山 京
		鹿野 順子
		西尾 幸子
		大森 和子
		鈴木 山
		中山 要

集り同志の研究へのきびしさ

誰いうとなくよぶ「春のたなばた会」

深沢ヤエ子

誰いうともなく、この家庭科協議会を私も同志の間では「春のたなばた会」と呼ぶようになった。年に一度しか会えない牽牛・織女の星の如く、恋いこがれあっているからだ。

めまぐるしい職場に致々として励み、次から次へと生まれる疑問や矛盾に、何か知ら一人で解決できないあせりと不安に、もやもやした胸中を、全部さらけ出して語り会えるのがこの協議会で、語っても語っても尽きないも

のが眼に見えない糸で無意識のうちに結びれて翌年を約すのだ。今回は参会者が予想の外少なかったが、時期が新学期直前であったためだとも思われるが、小教だけに真剣そのものであった。

大森先生から今回の文部省改訂要綱が詳しく説明され、それについてさかんに質問が出され、共通の○印のつけたいきさつ、委員の先生方の考え方や、裏話まで聞かされたことは出席者の興味を惹き立てた。衣・食・住・家族・家庭経営の五つの領域の取り方から、食物を食生活と調理とわけた理由や共通の○印を四つときめていて選んだこと、共通の領域にもっと必要な家族関係、保育など除外したこと、内容的な項目に重複のあることなど、鋭い発言は続いて大森先生も責任を背負わされてたじたじだった。

現場の私どもと委員の先生方とのギャップがあり、他教科との関連面からのことも摘出され、一応納得したものの矢張りすっきりしたものが、つかめず多くの不満が残された。しかし第二、三群あたりと一緒に五群がきらめれたことや、家事労働、管理経営など取り出されたことは非常の進歩と思われる。納得のゆくまでつっこんで質問し、時々爆笑も起

るなどやかな討議の中にも、はるばる遠方から集う同志の研究への厳しさが見られる。

落付いてまじめそうに話される清原先生、強く迫って行く池田先生、うつ向きながら早口でどんどん進む鈴木先生、ユーモアたっぷりの吉田先生、ゼスチャーを交へながら話される稲田先生、会員も張り切って時を忘れた。

ともすると家庭という狭い視野から眺めがちな家庭科が、それぞれ専門的立場から多角的に検討され、オートメーション化の時代から、やがてやって来るであろう家庭科の動向をおぼろげながらつかめたような気がする。

「教育は百年の大計」でなくてはならない教師みづから進展する将来の世代を予想して高い理想を描きながら現実の姿を凝視し、そこから生れるあい路を打開して行かなくては前進をはばまれるだろう。

第五次全国教研大会から拾われた清原先生のお話でもうなすけるように「農村で台所改善で盛んにかまどを改善したことによって、嫁さんの仕事が非常に多くなつて過重になり改善しない前の台所の方がかえつてよかつ

た」というような事実を、いったいどうしたらよいのか……。先生は家庭科の問題を、次の二つの点で投げかけた。

1 民主的な家庭生活を中心に考え、その家庭生活を営むために、衣・食・住・経営保育はどうあるべきか。

2 現在の生活をいかに改善して、理想的なものを持って行くか、即ち技術を通して生活を改善して行く。

この二つの家庭科の問題は、他の講師先生方からも出されたり、また私も日常現場にいるものなやんでいる問題でもあり、家庭科の本質論でもあるので、夜の会にも、またしきつめたふとんの上でもつきず、十一時過ぎまでつづき、遂々私など時間外のぬるいお湯につかったのであった。

家庭科も時代とともに進み、世代とともに生きて行くべきであつて、衣・食・住にこだわりすぎることも小さい。思いきつてそうしたもののから脱出できそうな気もする。家庭科の目標を、消費生活とともに労働力両生産の場であるとするならば、民主的な家庭生活が家庭科の中核であることは論を待たない。

○ 籠山先生は将来理想的な家庭生活が営まれた

ら、衣食住生活は簡單化され、食生活に於てはかんずめの切り方がわかればよいようになる。世界各國とも家庭科は社会科されて行くしかし子供を生んで育てることは社会的にはどうにもならない。またほんとの人間教育は家庭生活でのみできる。アメリカなどでも同じことをいっている。将来の家庭科は保育中心になって行くべきではないか。しかもこの保育は中学校の時代だけしか与えられていないのだ。云々」と述べ、結局女性には家庭科に於て保育にあたるのが理想で、経済的の裏づけは男性をもっと引揚げるべきだとの意味を感想として語られたが、この大胆な結論には女性の社会進出のための職業的見地をしめ出したものだと、現代の世想からの反対論も出された。遠い将来五十年、百年否千年の後かも知れない家庭生活を夢見ながら、現実のすがたにじっくりと取り組む会員のいぶきに敬意を表したい。

技術のみに捉われすぎたり、地域の世論に心を勞しすぎ、所謂昔の家事裁縫から抜け切らなくて、広く沢山のものをかかえこんで苦しんでいる姿もまだ見られる。私どもは真に家庭科のあるべき姿をながめ、思いきって教材と知識の整理をする事が必要である。

吉田先生から二群の立場からミシンの分解修理を實際に指導していただき、科学的研究の重大さを感じつつ、大人の中学生ができ上った。

つぎにカリキュラムの具体案が大森先生から出され、それについて検討し、カリキュラム構成上の心構え、単元の取り方など再確認された。家庭科として独自のカリキュラムを作るには、

- 1 家庭の民主化を中心にして作る、その民主化をどうして推進するか、そしてそれに必要な技術をどうするかを考える。
 - 2 二群関係を多く取り入れること。
 - 3 新しいものを作り出して行く力を養う、そのために筋金の入った家庭科にする。
 - 4 現実をみつめながら理想的なものを描いて行く事を忘れないこと。
- 小さな自分の考えも矢張り誤りでなかったことを痛感し、勇気百倍、自信を持つと共に心の躍動を感じた。掘り上げられた研究会はすばらしい躍進であった。講師先生連盟の先生方会員の皆様の御健闘をお祈りしてつたない文を終ることにする。

(山梨県南巨摩郡甲南中学校)

合宿研究協議会に 参加して

西尾 幸子

連盟会誌の誌上で研究会のしらせをみた時は、年度末の仕事に夢中で、あまり興味をそられなかったが、池田先生から呼びかけていただいたら急に行きたい気になってしまった。私は連盟に心をひかれていたらしい。

来てみて、やはりこの会のチャージングなものを感じるのである。ここでは、いつも現場の実践あるいは実践家への変らぬ愛情が底流をなしているようだ。またここでは理論が尊ばれる。この着実さと自由な開放性とが何れも前を向いた——融け合おうとして、心安いサークル的雰囲気をもも出し出そうとする。各方面から優れた理論的助言者を集め、しかもその人々がいろいろ偉い肩書を外して、一個の人間としてこの会に参加されているのも、会の魅力的なものに原因しているのであらうし、またそれがこの会のサークル的雰囲気を作り出すのに役立っているのだから。岩

手、新潟、大阪あたりから職家のお友だちが集い合って心をはすませた二日間だった。

「一体カリキュラム像をどうお考えですか」と現場の悩み。「そこでは家族の民主化が中核でなくては」「国民教育運動の体制の中で生きるような力をつけなくては」「働く女性の立場、婦人の解放の立場がぬけてはいけません」「個人の力で家庭の民主化をやるうとしても男も女も生やさしい努力ではできない。婦人解放をめざす今後の婦人のあり方をぬきにしてはカリキュラムも考えられない」等々実践と理論のかみ合せがまだしっくりしないようだ。

二日目の討議では一つの具体案をめぐって効果をあげたが、なお、物足りなさを感じた。理論と実践のかみ合せという大事な仕事を効果的にやるには、具体案をめぐってなされることが望ましいが、今後はこの点について問題提起をする人もプリント等の準備を行い、また会の運営についても、予想される問題などをかかかって呼びかけるなど、共同思考のための便宜を計らいたいものである。

家庭科教育で地域性の問題はどうか取り扱ったらよいのだろう。複雑な地域の要求も、今

すぐはどのようなにもならない生活実態に過ぎたものや、おくれた生活意識に過ぎたものやさまざまであろう。こんなことも、もう少し深めることが出来たらと思った。

働らく女性の立場ということが屢々語られた。働らく婦人といっても具体には農業小営業等の小生産者の家族労働力の一部として働いている場合、家庭外で働らく場合、内職を持つ場合、PTA等の奉仕活動をする場合など主婦の家事労働外の労働も前近代的なものから近代的なものまでさまざまであるが、何れにしても婦人労働は結局経済的理由と人間の成長から歴史の必然である。してみれば、単に生活技術としての第五群のより完全な熟練者を養成することの社会的意味は、私達女にとつてあまり幸せなことではないようだ。第五群の熟練者は家事労働に釘づけされるからだ。とそんな事が感じられた。

日本の家庭科教育が暗中模索している間も幸福を求める婦人の生活は足を留めているわけにはいかない。過去の家事、裁縫をふり返る時、果して何人が無駄なく今日の生活の中にそれらを生かし幸な生活を送っているだろうか？ 私達は再びあやまちを繰り返して

はならない。次の世代が「無駄な時間を費した」とため息を洩らさなくてもすむように、常識的な処世術の域を出ない家庭科関係書しか持ち合せない淋しい現状をながめる時、新しい立場、婦人の幸せとつながる家庭科教育が編まれなくてはと、連盟の力に期待することが大きい。(埼玉県教育研究所)

一般的なレベルの 教員として

上村 英

私は現場の教員であること教員としてはごく一般的なレベルであることを誇りとしています。ですから私のわからないことは、大方の先生方の疑問点であると思うし、私の理解程度は指導主事さん方にすれば、大変御参考になるだろうと、自分の存在意義を高く評価しているわけです。

その意味で、私は伺いたいことを本気で考え、本気で討議していただき、方向づけられたことを、誰に向って感謝してよいのかわからないほど、満足を覚ええました。連盟が家庭科に対して批判的で冷たいといった考えの間違

っていたこともわかり、よい国民生活を考えあうには、男女階層を問わず、真面目な討論と修正が続けられねばならず、それによって「家庭科本来の理會に到達する」ということを考えなおしております。

(新潟県南魚沼郡塩沢中学校)

この度は、いろいろとありがとうございました。一度参上したら、もう忘れられない会ほんとうに御會によつて、いかばかり勇氣をお与えいただいでいることでしょう。いつもながらまた沢山の課題をいただいでまいりました。ひとり考えているばかりでは發展はない。まづいながらも表現し、それに対していろいろ御指導をいただき、また不十分なながらも、いろいろ勝手なことを申上げの中に、前進の期待がもてるような気がします。

家庭科を一本離れて、そこから家庭科の性格や内容を考えてみたいと思つていました。そういういみから、技術論や弁証法を一寸かじつてみておりました。またポリット編の婦人論や岩波新書の女子労働者を読みはじめたところでした。先生方にも、もっといろいろおうかがいしたいこともありましたが、現場の先生方の御要求が大事と思つて、遠慮

いたしました。今後もよろしくお願い申し上げます。(鹿野順子)

★連盟だより

▽三月末の第五群研究協議會は、少数であったためか、大変コクがあつて、質的に今までにない充実していたように思われ主催者側としても、うれしく思つています。御参加下されし方、特に感想文を寄せられた方々へ深く御礼を申し上げます。

▽本号には磯部氏の真面目な研究と、安達氏の実験記録に大部分のページをとりました。大分問題点もあるようですから、よく読んで頂いて、どしどし御批判を寄せて下されば幸いです。

▽吉田元氏の学習指導案は、前号より毎号入れて行つて、あとで切りとれば、カード式になるよう工夫されたものです。機械の指導を行われる上に、重宝なものになると思つています。

▽次号については、まだ予定がありませんみなさんから、大いに原稿を頂けたらと期待しています。

×

▽つぎに本連盟編集の昭和三十二年度用の新教科書が十二冊とも、文部省検定を通過致しましたについて、教師用指導書の作成を必要としています。それには、なるべく実践を基礎にしたいと思ひ、地方で熱心に実践していただける会員の皆さんに、御執筆願ひ、連盟本部のものも参加して、文字通り「連盟版」を作りたいと考えています。

▽これは、会員の執筆活動を促すことをもねらいとし、稿料も支出します。すでに御執筆を依頼している方には、よろしくお願い申します。

▽現在の予定では、体裁も、B倍版二五〇ページ、都市・農村・男女別全四冊、堂々たる指導書にして、教科書採用校へは一冊宛贈呈、それ以上は定価販売の予定です。刊行されるのは来年です。

×

▽なお毎度申上げることですが、会費僅かに年二四〇円ですから会員になつて下さい。いろいろ便宜が与えられます。

▽会員で御転任の方はお知らせ願ひます。

生徒生活協同組合の 計画と運営

大分市立滝尾中学校 安達 宮 一

まえがき

中学校の産業教育は、職・家の技術を通じて、産業教育を推進するもので、その教育の如何が、その学校の産業教育のレベルを決定する重要な要素であることはいうまでもないが、果して一教科のみの産業教育でよいのか技術を通じて人間形成を成し得るか、職・家教師が現代産業の基礎的技術を充分身につけているか、施設設備の内容を如何にして充実するか、地域社会の関過を如何にするか、他教科との関連は如何にするか等々考えるに及んで困惑を來たした。

そこで中学校の産業教育の正しい位置づけでありたいことを念願し、研究するに及んで本校が九学級の中間の学校であることと、既設農園六反歩を有し、更に山林六町五反歩の学校林があることと、地域社会が農村を主体として居ることから、その農村の課題は何か

——民主化の問題・協同化経営の合理化・生活の改善と経済の確立・生徒の進学就職の問題等。これ等の問題を解決するためにも、二名の教師でこの任務を遂行できないことを話し合い、全職員に参加と協力がなくては、この産業教育を推進できないことが決定した。そこで中学校の産業教育は、学校全体の教育構想の中に、教科を基盤にして、特別教育活動、課外活動まで含んで、推進されるべきである。そして産業教育を中学校教育のバックボーンでありたいと考えたのである。

生徒自身の自主的な活動によって技術を磨くと共に、人間形成の場としての協同組合の組織をとり入れ、経済活動を行い、教科活動の研究と相俟って近代的生産人への場としたらという意見により、協同組合の活動を実施研究したのである。以来二年間、未だその研究は緒についたばかりで、本格的な研究は今

後に残されているが、本校が今まで歩いて來た協同組合のあとを記述して、各位の御批判を乞いたいと思うのである。

一、協同組合設立の意義

生徒自らの手で、学校協同組合を運営させることによって、勤労に対する正しい信念を確立し、工夫創造の能力を養い、もって経済自立のできる技術と態度を習得させ、産業教育の真の目的を達成したいと考える。

(1) 新しい社会は新しい人によって建設されなければならぬ。そのため個人の能力を最大限にのばすとともに、社会人としての人格を養うことが最も大切である。農村の振興をはかり、経済文化の向上を期するには農村の民主化と同時に、民主的な組合の建設が国家的な課題でもあり、経済興隆の基礎でもある。さいわい滝尾農協は、県下でも優秀な組合として運営されているので、この組合組織をとり入れ、産業教育を推進して、民主的経済人への育成の場としたい。

(2) 学級数の少い本校（九学級）では、施設設備の面から考えて、職員の構成上全職員の参加と協力により産業教育の推進を図るために、学校協同組合をとりあげた。

(3)現在の貧困な施設設備を生徒自らの手に
って運営し製作し管理することは、学校教育
の中でも重要なことである。殊に農村を地域
として農家の子弟の多い本校は、幸いにも相
当広い農園を持っているので、この栽培管理
に生徒の自主的経営をさせることが必要とな
って来る。

産業教育の目的を達成するためには、職・
家を中核として各教科の目的に添い、基礎技
術の向上を図ることはいうまでもないが、こ
の技術がたんなる技能に終ることはいませぬ
なくてはならない。あくまでも正しい技術と
同時に、正しい実践力によって培われた全人
的教育でなくてはならない。手と頭が同時に
働く、即ち知性にみちたかれた技術のあり方
でなくてはならない。この点教科運営だけ
は不足で、常に学校教育課程全体の構想の中
に生きて実践されなくてはならない。自主的
に活動する協同組合の組織運営を強化するこ
とにより、以上の目的を達成したい。

二、協同組合の教育的意義

(1)組合は自治活動としての経済的活動で、生
産・流通その他の面をうけ持ち、ともに働
く場として、この(なす)ことによって(学ぶ)
原則が最も強く現われるもので、生徒が自

主的に活動する時はじめて一人一人として
生きて行き、而も学校生活の中に自然的社
会的環境の影響を受けながら、協同して考
え新しいものをつくらうとするのである。

(2)教育の一般目標の完全な実現は、教科の字
習では足りないものであって、教科の活動で
はないか、それ以外に重要な活動がいくつ
もある。正規の学校活動はすべて教育課程
である。したがって教育活動の中に組合活
動も含まれることになる。組合活動は、教
育の一課程として規定された課外活動の時
間に運営できるように企用されることが望
ましい。

(3)産業教育の真の目的を果すためには、技術
や態度か如何に陶冶されて行くか、またそ
のものが如何に生徒自身の手によってなさ
れるかにある。真の技術を身につけること
によって態度は表われる。態度は技術の表
現の仕方によってきまるものである。

技術は労働手段を使用することによって
労働力となり実践力となる。とくに生産的
な実銭は、計画的であり目的意識的でなく
てはならない。教科で学んだ技術を、生活
の場において意図的に陶冶するためには、
技術の自主的経済活動分野としての組合活

動は大いに意義が深い。

(4)技術は知識の形で、社会的に客観的に伝承
されなければならないことはいうまでもな
いが、高い知性に導かれた強い実践力を目
指すには、組合活動そのものが高い知性に
よって媒介されるべきである。組合を最も
能率的に立派にするには、生徒相互に考え
決意、知性を働かせて実践することが服ま
しい。

三、協同組合の組織構成

協同組合の組織は、その目的が性格によっ
て正しく位置づけられ運営されることが量
要で、次の諸点を基礎にして我が校の組織
を構成した。

- (1)組合は特別教育活動として、独自の目的と
性格をもっている。
 - (2)組織が複雑になると、運営が困難になるか
らできるだけ簡素にする。
 - (3)組合の活動は、本質的に教育課程全体の機
構の中に含まれている。
 - (4)協同組合が産業教育の中心であるという
立場はとらない。
 - (5)ホームルーム、生徒会、クラブ活動との関
連を考へる。
- 以上の点から、組合は生産的経済活動分野

であるから、生徒会と併立的に考え、独自の機構をもって組織した。

(3) 生徒会との連絡は、役員の一部が委員会に出席して横の連絡をとる。

(2) 組合には各部を設け、各部部长を置き、部長は常任理事として組合の企画や運営の中心となる。

(3) ホームルームより委員二名が理事として理事会に参加する。

(4) 組合長、副組合長、監事は、全校の選挙によって決定する。

四、協同組合の運営

協同組合に、生産や流通消費面を、技術を通じて学び取る組合の活動でなくてはならない。そのためには、教師の積極的な指導と生徒の自主的な運営によって、その目的は達成できる。

(1) 組合活動と教師

協同組合の運営を図るためには、限られた教師のみでは目的を達しがたい。全議員の理解と協力により、各々の技術をそれぞれが立場において生かし、技術の指導に当ることが絶体必要である。本校では週一回の企画委員会（学校長、職家教師、学年主任、校務主任）を開き、これを全職員室

で研究している。

(2) 組合活動と自主性

組合の活潑な活動は、教師の指導や施設設備の充実にもよるが、生徒の自主的な活動でなければ効果はあがらない。そのためホームルームを基礎として、年間計画をたて組合の仕事を分担し、実行反省を行う。さらに定期の総会、理事会、部会を開き、(常任理事会は必要によって開く) 生徒の自主的計画を尊重し、その運営に当らせている。

(3) 組合運営の時間

組合活動は、その性格上課外活動として生徒が自主的に運営することが望ましい。理事会や常任理事会の開催時については、クラブ活動との関連の上から種々考慮し、クラブ活動の時間を組合活動にと考えたが、性格上無理を生ずるので中止し、理事会課外活動として、木曜日(課外)に、クラブ活動は金曜日の第六時限にした。また土曜日の五時限目より協同組合の活動として、全校生徒が各部の仕事に参加することにした。

(4) 地域社会との関連

産業教育の推進を図るためには、学校と地

域社会とが、きんみつな連絡をとり協力せねばならない。そのためPTA合同の企画委員会や部落会を開き研究に当たっている。

五、協同組合とクラブ活動との関連

クラブ活動は、特別教育活動の中でも、ホームルームや生徒会に比べると、非常に異なった性格をもっている。個人の興味や関心が主体となって組織化され、自主的に活動する等によって個性の伸長をはかり、共同研究、共同作業により、社会性を培う場として、その任務は重大であり近代感覚にたった大切な教育課程である。従来本校のクラブ活動は、施設設備や希望数、教師の問題などで、困難を感じて来た。そこでこれを解決するために再検討を加え、協同組合との関連において、その内容や運営の方無を決定した。

(1) クラブ活動や協同組合の仕事の性質から、基礎的な技術を含んだ部をもうけ関連させた。

(2) ホームルームから出された生徒が、協同組合の部員となって、それぞれ部の活動をしている部もあり、クラブ員がそのまま協同組合の部員となって活動している部もある

六、協同組合とホームルームとの関連

中学校教育では、民主的で憩の場として、

特別教活動の基礎として、重要な役目を果たさなければならぬ。ホームルームの指導が、

計画性のない時間となりがちであったことは充分反省させられる。この点から本来の目標と内容以外に、組合の仕事を取りあげ、共同で技術面の仕事を計画的に実行することにし、組合活動の基礎となるように指導している。そして地域の特異性、生徒の状態、学年別による心理的、身体的発達段階に即応して、指導目標を決定し、作業内容をつぎのよう

に決定した。
等一学年男子―農園の責任分担。女子―花園の経営。

第二学年男子―果樹園栽培の分担と自給肥料の製作。女子―家畜(鶏)の飼育

第三学年男子―果樹園栽培と植林苗木の育成
女子―小区域の農園経営

七、組合の事業計画

組合の事業内容については、その性格と産業教育の観点から、学習活動やクラブ活動の発展の場として、その内容を決定した。

- (1) 学習活動学校生活に必要なしごと。
- (2) 基礎的技術を多く含んだ仕事。
- (3) 生徒の生活を改善しようとする仕事。
- (4) 奉仕活動の仕事。

(5) 地域の問題解決のための仕事。

(6) 農園管理の仕事。

以上の点から組合各部では、技術分析を行い、各部で年間計画を立てて、各教室を刷ってそれを基礎にして仕事を行っている。

八、組合各部の仕事の概要

1 庶務部

A 会計係

会計の性格、仕事の範囲を話し合い、本年度の目標を決定、それにそうように組織計画を作成し、日々の活動を行っている。

(1) 時間、毎日の活動時間は、仕事の性格上、放課になった時から一斉下校の五時迄とし、部屋に詰めてその日の収益金を受けている。

(2) 人員、十二名の部員が三年生と二年生(各名をつくんで日直制をとっている)。

(3) 受入方法、購買部、販売部、飼育部の各々は、その日の収益金を計算し、出納簿とともに会計部の日直に納入する。会計部員は現金と帳簿の金額とが同じであるかをたしかめ、領収印をおして、それぞれの部にかえる。その日の総収入金は銀行部に預けられる。

B 調査統計係

調査統計の仕事は、学習活動に必要な調査組合の財産、組合員の希望などを調査し、長所の伸長と欠点の補足排除を究明し、組合の活動の基礎として、ひいては統計的視野を養う。

(1) 処理 行事計画表によって実施し、すべてを生徒の各係で自主的に図表に整理し、調査事項によってはホームルームで扱い、日常学習面に利用して向上の一助とする。

(2) 結果による一部概観

① 手伝い特態 都市周辺の本校地域では、主として家庭に助力する面が多く、農業関係が六割にも及ぶ関係から、家畜の世話、風呂たあ等にかんがりの比率を占めている。

② 在校生の進路希望及び卒業生の動向 父兄の関心が進学に注目され、逐年増加の傾向にあり、産業教育と基礎学力の徹底ということは、重要な教育上の問題である。

③ 職業別希望生徒数 生徒の職業別希望の動向が農業主体から、漸次離脱の傾向を見せ、機械工・土建・銀行・銀行・食料品・教育公務員に上昇が見られる。

2 銀行部

昭和二十五年十二月滝中銀行が設立され、主に奉仕的な場として、また教育の場として

活動していた。当銀行が協同組合の一部門として統合されるや、活動分野はより広くなり生徒の貯金の受付け、組合の会計の受入れ等で、組合活動の重要な部門となった。

(1) 指導の方針 実践を通じて経済的知識や会計事務などを学びとらせることが基盤であるので、行事計画をたて左の組織によって運営している。

部長——台帖係・勘定係・窓口係
(2) 部会は毎週行っているが、部活動をよく合理的に能率をあげるために、出欠席簿・営業日誌等を正確に記録している。

(3) 毎週土曜日を除いて、一学年は月、火曜日
二学年は水、木曜日、三学年は金曜日とし朝八時昼食時の二回に営業している。但し臨時に営業する場合もある。

(4) 部員は三名宛一組として、輪番制で従事している。

3 購買部

研究校に指定されるまでの購買部は、単に生徒の便宜をはかる程度で、その運営の主体は教師の側に置かれていた。然し協同組合の一分野として発足するようになって、この部を教育活動の場として指導し運営する方針をたてた。先づホームルームを基盤として広く

意見を求め、目標や運営方針、規約、行事計画、技術内容の分析等を研究し、生徒の自主活動を推進している。

(1) 組合の規約にもとづいて、毎週一回、必要に応じて部会を開き、週の目標、運営面の反省、土曜日の仕事、理事会提出議案等を協議している。

(2) 営業時間 午前八時より八時四〇分、零時半より一時、午後三時半より四時三〇分
(3) 仕事の割当て 購買の活動は、授業時間外に毎日行われるので、学習時間等の点から過重に陥らないように考慮し、部員三名宛

大班に分け、輪番制とし当番三名は、会計記帳・販売の仕事を担当している。

(4) 係の仕事 会計係は売上代金を伝票や売上帳と照合し、現金を組合会計部に納入する。記帳係は、売上帳、仕入帳、売掛帳、伝票、日記の記入をする。販売係は、販売価格の決定、販売方法の研究(宣伝ポスター、陳列)品調査、要求商品調査、注文書納入受入等の仕事をする。

4 飼育部

家畜の飼育は、生徒のもっとも興味あるところであるが、その飼育を合理的に行わないと、教育的にもかえって悪い結果を及ぼすこ

とになるので、職家単元の適切な指導計画と協同組合の飼育部の計画とが、密接な関係を保ちつつ飼育の適正を図ることが最も必要である。

(1) 四月に飼当番を二年女子が当り、生徒とともに飼育計画を立案して、一週間交代の当番制とした。

(2) 当番記の作成、日記の記入、鶏の健康状態の観察、給飼は七時半、正午、午後四時半の三回とする。舎内の深掃、鶏糞の片付け鶏卵の所理販売部に廻す用具の整理等、休み時間を利用して飼育に当たっている。

(3) バタリー式と平飼いの比較 近頃バタリー式が各養鶏家に応用させるに及んで、さかんに飼育方法の改善が行われて来たので、本校でもバタリー式と、平飼いの方法とを比較し研究し飼育している。

(4) バタリー式は、飼料の如何によって産卵率に非常に影響することが大きいので、飼料の区分を行い、二ヶ月のひなから、一週間毎にの体重を計って比較している。

(5) 飼料の自給自足 農園の一部を使って飼料作物の栽培を行い、飼料の自給自足を図っている。

(6) 鶏糞の所理 卵を取るだけでなく、鶏糞の

乾燥は、肥料の給度を高める目的を持って
いるので、鶏糞の乾燥は当番の大きな任務
の一つとしている。

(7)月に一、二回の定日を予防清掃日として、

DDTの撒布を行うと同時に、舎内の修理
大掃除を行っている。

5 栽培部

A 栽培部の活動と農園経営

(1)生徒の手で農園の栽培、農具の保管手入れ
肥料、薬剤撒布、乾燥、貯蔵を年次計画の
もとに運営している。

(2)栽培部の組織 栽培部長―農園管理係、花
世園芸係、植林係、農機具保管係

(3)農園経営は、学校全体が当ることを原則と
した、ルームに農園を分け全職員がタッチ
している。

(4)農園を学年別、共通、傾斜、クラブにも配
分し、農園管理のコンクールを開き、表彰
を行っている。

(5)理科と連絡をみつにして、科学的栽培を重
んじ、観察調査研究を主体として、その結
果の発表会を行っている。

(6)季節に關係ある作業は優先的に取扱い、作
業管理、生育日記をつけ、部長が機関して
いる。

(7)週一回課外活動の日を議定し(土曜日の午

後)其の他の作業も課外の時間を当て、用
具を保管係が毎日検査し、日誌に記入し必
要事項は校内放送を通じて知らせている。

(8)生徒の技術と仕事の内容

①農場を学年に応じて配分し、個人差に応
ずる実習をさせるとともに、男女別に作業
させる。

②基本的技術を多く含んだ仕事は、職家の
単元の時間内で計画をたて、集合動作、服
装、用具などの資材と相俟って指導してい
る。

③生徒に仕事をあたえて責任をもたせ、高
度な技術は教師が指導し、選択の生徒にあ
てている。

④栽培部と学科指導には、一貫性を持たせ
るために、各組から二名づつの部員を選出
させ、部を構成し、生活改善、飼育、販売
部との連絡をとり、合理的な農園経営と管
理を行っている。

(9)地域のセンターとして、地区の声を充分に
聞くことが必要で、地区の有識者と連、絡
をとり、地区の品評会など我校で開く。な
お農協や試験場との連絡をとり技術の向上
に務め、新しい薬剤や肥料などの研究をし

て、これを取り入れていく。

B 植林部の活動と植林の現状

(1)植林面積、六町五反、一人当り〇・一五反
(2)植林部の年次計画を樽立し、それにもとづ
いて毎年の植林の実施をしている。

(3)産業教育企画委員会は理事会の報告にもと
づき、組合全体の一大事として、各種団体
と連絡を保って、管理指導に当たっている。

(4)植林関係は研究会、理事会に参加し、植林
に必要な各種台帳を揃え、観察、手入の実
際、事業計画、協通事項等を記入の上、保
管している。

(5)学校育苗は植林係が中心となって三年男子
がこれに当り、農園管理と平行してその育
成に力をそそぎ、地区の人達の苗の需要と
相俟って、かなりの成果をあげている。

(6)収益はすべて学校経費にあて、その障理手
入は全職員生徒が之にあたっている。

(7)教育の一環として指導時間は、三年間に十
八時間あて、職業科、社会科、理科を中心
として指導目標単元の取扱いに万全を期
し、植林の意義徹底と技術の向上に当って
いる。

6 販売部

学校協同組合発足と同時に、栽培部より分

離し、協同組合の一部門として、新しく発足したのが販売部である。栽培部、飼育部と密接な連絡をとり、校内生産物の販売に従事している。販売部では、生産物の適正な価格の決定と迅速な販売のため、つぎの各部をもうけている。

(1) 販売係販売係は栽培部、飼育部と連絡をとり、収獲物の販売に従事している。

(2) 記帳会計係販売係と共に、売上記録、会計に従事し、収益金を協同組合会計部に納入している。

(3) 宣伝係生産物の校外外宣伝のポスターの作成、校内放送放送の利用を通じ宣伝にあたっている。

この外毎週一回部会をもち、前週の反省、市場価格の調査に基づく校外外販売価格の決定、来週の計画樹立等により、販売の円滑化に努めて来た。また生徒に生産高、売上高を知らせるため、毎学期ごとにグラフの作成に当って発表している。

7 営膳部

施設設備と教師の問題とが関連して、この仕事は最も有効に選定されなければならぬ。またこの技術を一人の教師で行うことは困難であるから、協同組合の営膳部として三

つの基礎技術を含んだ仕事をすることにした。この部はクラブ活動の部員がそのまま組合の仕事も受持ち、個人研究と奉仕津動を兼ねている。

A 木工部

毎週開かれる部会を中心にして、理事会よりの要求事項その他各部からの希望により、部会で討議し、毎週の仕事を決定する。決定した仕事は、製図部により設計されて木工部において製作される。

(1) 木工部には、管理保管係、製作係、塗装係をおき、その製作に当たっている。

(2) 管理保管係は、機械器具及び工具の能率的に使用方法の研究と、機械器具工具を種類別に分類し、それが目的に供するように部員を通じて、合理的な保管管理を行っている。

(3) 製作係は、製図部より廻された仕事の作業工程及び構造内容を研究し、能率的仕事の方法を部員と討議して合理的な仕事を行う。

(4) 塗装係は、製品の用途目的を研究し、それが最も目的に適するように半製品の不良による損失を防いだり、塗装方法の作業工程を部員に示して製品の上に行う。

(5) 製作(例) スピーカーボックス(放送聴取用) 全員による流れ作業方式を用いて、一班から六班までの班別を組み、班員四―五名の成人員で、それぞれの工程部門配置につかせ作業した。

木取部―墨付部―鋸逸切込部―鉋掛部―塗装仕上部

(6) その他の製作修理品(昭和三十年度)

腰掛修理、学校用踏板製作、机の修理、鶏舎の修理、農具室の整備、温床わくの製作
運動用具製作、修理等

B 電気部

電気部は指定校になるまで、不十分ながら理科用設備でまかなっていたが、電気の知識技能は共通学科として必要であることを痛感して、電気部による施設設備の充実と技術の向上を図るために、最小必要量の施設設備を施したが、なお不足で今後の電気部の活躍に大いに期待している。

(1) 電気部はクラブ活動や組合の奉仕的活動を通じて、学習用品の整備、標本の作成、校内放送器具の取扱い、配線など行っている。なお個人的研究としてはラチオの組立て、配線図の書き方などの研究を行っている。

(2) 組織 部長―企画係(クラブ計画、環境整

備、日記の記入) 工具係(工具係管の手入)
製品材料係(材料入手、保管購入)

(3) 製作修理品 屋内電気用具標本作成、コードの標本、配線図、校内プザー作成、電熱温床の作成、電気用具の修理、ラヂオの組立て等。

8 印刷部

(1) 写真練習 この部が協同組合の一部門として、その目的にそような独自の活動をするために必要最低限の基礎技術や知識からとりかかった。孔版印刷は種々の用具を使用するので、まづその名称、種類及びその特性を実物に即して理解させ、併せて写字練習を行った。生徒の写字は自由体が多いため、ゴシック書体、楷書体の写字を練習することを主眼とし、見本を参考として十種五耗方眼紙で模写した。

(2) クラブ活動の時間では、つぶし練習や色刷練習を行い、ポスター(協同組合各部の宣伝)を創作した。

(3) 学校新聞の印刷 学校印刷は活字印刷を主として発行しているが、発行のあい間にプリント版を発行している。生徒会の新聞部で取材編集したのを印刷しているのであるが、プリントが鮮明になるための工夫とし

て、原紙の切り方インキの選択とのぼし方ローラーにつける量と力の入れ方、印刷の速度等を話し合っている。

(3) 用具の保存と手入れ 以上の仕事は週のクラブ活動、協同組合の活動の時間に当てて実習しているが、部員の中をグループに分け、共同作業としている。そのグループで当番をきめ、印刷室や諸用具の管理手入れを週二回行い、部長がこれを監督している生徒の自治活動が盛んになる程、使用者が激増して来ているので、今ではこれ等生徒の指導も部として話し合っている。

9 生活改善部

生組改善部は、生徒の家庭及び地域社会の実体を調査研究、消費生活の合理化にため、生活の改善によって、労働力の再生産を凶り、農村の生活改善に資するため、衣服と食生活を中心に左の組織で運営している。

部長―調査調(査事項決定調査) 統計係(統計をとる) 定実践係(調査統計の結果の整理と研究)

A 衣服の部

(1) 衣服研究の計画及び定実践方法

- ① 調査事項の決定、調査用紙、印刷配布、
- ② 統計を取る ③ 実技を通すことのできる

場合は作業実習をする④ 調査結果の報告及び実践新法は告知板校内放送学考活動、クラブ活動、ホームルームを通じて報告⑤ 作業日は作業雑布マット作り、硝子破損修理生徒の個人報装整備。

(2) 衣服調査の結果 ① 衣服生活に対し計画性がない② 子供、学生、壮年は洋服、老人婦人は和服を使用している③ 冠婚葬祭時の服装は未だ改善されていない④ 死蔵物が多い⑤ 農家は重労働のため時間がなく、衣服に手が廻らない。

(3) 処理法 ① 衣類年間計画表の作成配布② 普着の改善、仕事着の研究③ 死蔵物の更生、古着小布の利用更生、雑布、マット作り、死蔵物の活用方法の研究、更生服染色、手芸小物品。

(4) 技術の考得ミシンの使用、機械の操作、技術の考得は主力を注ぎ、毎日放課後組合活動、クラブ活動、学考時と関連して、実技の考練を通じて衣生活の改善につとめるようにしている。

B 食物の部

地域社会の食生活の実体調査によって、その結果を基礎とし研究している。

(以下省略) 終り

問題工員群像 (その一)

後藤 豊 治

(まえがき) さきごろから、われわれは問題工員の研究をすすめている。その第一着手として、某機械工場において問題とされている工員をえらび、ケース研究をとげ、問題の工員となるに至った条件を追究している。この研究対象となったいくつかのケースについて略述連載し、中学校における教育・指導上の参考に資したいと思う。(総括的には後日この誌上で報告するつもりである。)

事例1 (O、E、男、二十二才、製缶工)

〔問題〕 しばしば無断で事故欠勤をし、勤労意欲にとぼしい。

(一般資料) つごうにより省略

(身体状況) 大がらで頑健そうに見える。中学時代、陸上競技(長距離)や野球(外野手)の選手であった。慢性胃病あり、ときどき痛むので薬をつづけているという。蓄膿症があると訴えるが治療していない。ときどき頭が

痛むが、そのときはほとんどうつむくことができないう。幼少時(たぶん小学校一年ころ二階からおちて後頭部をうち、二週間をらい口がきけなかったことを記憶している。

という胃病ならびに蓄膿症については、医学的診断の結果いずれも著変なし。すると、疾病を強調しているか、疾病への逃避傾向があるのかもしれない。頭部外傷による各部損傷があるかどうかは、検診不可能のため確認されない。長距離走者であったし、野球のばあい外野手をしていたというから、大筋の運動機能には異常がないとみてよからう。

(知能・学力・技能所見)

知能中位、知能検査の低位検査について検討してみると、順唱、逆唱、算術推理においてはかなり劣っているが、常識問題、絵の配列、積木のデザイン(ウェクスラー・ベルヴェー法改訂「知能診断テスト」による)などにおいてはむしろすぐれた成績を示す。これらの点からみて、記憶力、注意力、自己統制にやや難があるかもしれない。また脳の局部損傷もうたがわれる。

彼自身の諸経験、ことに中学時代、養成工時代の教師の彼に対する言動などから、自分は知能著しく劣ると思ひこみ、その点でかな

り卑下しているように思われる。

中学時代の卒業成績は、体育のみ「優」、他はすべて「良」となっている。学力についての具体的評価がないので、こまかい点ばかりからない。(学力検査は行わなかった。)本人言によれば、数学だけは数字を見ただけで頭がいたかった、ということであるし、全くなげていたふしがある。

製缶工としての技能はふつう。

(情意・性格所見)

(1) クレーペリン・内田精神作業検査からはつぎの諸点がいえよう。

まず問題になるのは作業量である。休憩前十五分間の作業量は5〜15にあり、休憩後のそれも10〜20の間にある。一ケタ数の加算がひどく困難のようである。知能検査との照合が必要。質の点からみると、初頭努力があまりみられない。休憩後はことにそうである。休憩後の作業量の増加も顕著ではない。作業量のムラ(曲線の動揺)も一分間の作業量からみると大きいといわなければならない。

以上の点からみて、頭部外傷のうたがいものころが、とにかく知能が問題となる(知能の項)。仕事へのとつきも良好ではないだろうし、ムリに努力してもあせりがでて、仕

事はすすまないだらう。

ただし、この被験者では、加算以外の作業によって検討しなければなるまい。人から不器用でグズでダメだと見られることが多いらしい。入社当時の養成指導者の言や現場管理陳の考課にもあらわれており、そのことで本人も自分はダメだと思こんでいる。失敗や事故災害を調べてみたが、この点ではとりたてるような事実はない。

(2) ロールシヤッハ・テストによる所見

○ 陽気な気分が見られる。常態になれば、むしろ陽気で快活な男であらう。

○ かなり精神の統一性に欠ける。空想性はかなりつよく、子供らしさ、些事の関心がある。

○ こまかくすじ道を追っていく性質の思考など不得手だが、外而的、実際活動にはかなり積極的である。

○ 感動性はかなりつよい。

○ やや気まぐれで、ひとつことをじっくり追求する態度に欠けるようである。

(適応自己診断)

要約すると、健康についての心配がある。とくに頭痛・腹痛・あたまが時々ぼんやりするなどの訴えあり。器用さに欠けるとか、あ

たまがわるいなどの「気やみ」傾向があり、退行的傾向がうかがわれる。また耐忍性の不足を示しており、現職務継続意志のとぼしきが見られる。対班長関係に難あり。それも「気やみ」であり、班長をさげようとしている。余暇における「気ばらし」の行動が顕著のようである。

(補追された事実の一部)

○ 欠勤は気になるが、一度休んでしまうと現場の者、ことに班長に顔をあわせにくくなり、また休むことになってしまふという

(本人)

○ カケごと、飲酒はしないらしいが、特殊飲食店通いはかなりらしい。(人事担当)

○ 給与は、所内食堂での食券(三食とも)や生協の月賦差引きその他でほとんど本人の手には渡っていない。(給与係)。生協から物資購入は、これを転売し、現金を入手するためであり、悪循環するものようである。

以上の事実や所見、さらに現場での観察事実などをもとにして行った事例協議会で出された総合判断はつぎのとおりである。

1 一般知能はさほど劣るとは見られないが

特殊知能、ことに数処理の能力は著しく劣っている。その点だけをとらえてのふだんの評価が、本人を沈滞させ、生活意欲、勤労意欲の向上を阻害しており、欠勤の大きな要因ともなっている。

2 現職務は不適切とはいえない。ただしこの判断は、身体状況についての精密検査、ことに脳の損傷の有無・胃病・蓄膿症などについての精密な検査をまっぴり下す方がよい。

3 活動的だが、統一性に欠け、やや気ままで子供らしい点があり、困難や不評への耐忍よわく、逃避的行動をとりやすい、新しい事態への当初の適応が困難である。

(このケース追求から得た教訓)

1 学校や産業現場での人事管理上必要な個人資料の不十分さ、ことに身体状況すら十分につかめない状況である。

2 学校の教師や産業現場でのカントク者の機にのぞんでの「承認」や「賞讃」の必要さ。

3 困難、不評などに耐え、さらに克服していけるような「耐忍性」を育てるにはどうすればよいかを、教育現場でもっと考慮し計画しなければならないこと。

(国学院大学教授)

学年始めの感傷

年々歳々人同じからずと古人はいつたが、学校はとくにそれをはつきりと示すところである。三月末には巣立って行く卒業生たちが螢の光を歌い、去りがたい校内を出ていく感傷の涙を、あちらこちらで流したことだろう。教師もまた、手がけた教え児の成長した姿に、種々な思い出をつづったにちがいない。うれしさとも、悲しさともつかぬ人間別離の感傷は、いとも美しい愛情の泉を湧き立てる。四月ともなれば、新入生が成長したよるこびを、顔一ぱいにたえて、代りに校門をくぐる。生徒だけではない。先生も何人か去りまた来り、おそらく多少とも動揺の起らない学校はないであろう。それは更新といえ、いえるが、人生のうつりかわりの波紋という方が適當のようである。

○ 校庭の桜が咲き、柳が芽ぐむあたり、その波紋の描く感傷は、学年始めにはまだつづいている。全国津々浦々の感傷のどよめきが、きこえてくるような気がする。

今年もまた幾人かの勇退や移動が知らされてきた。しかも産業教育に専念して、新学年こそはとはりきっていられた校長や教師が退いたり、また転任になったりするごとに、事情はよくわからないが私の心にも感傷の波紋が起る。そして瞬間残念とも何ともいえないわけのわからぬ憤りのようなものさえ湧き上る。教育への愛情をわきまえぬ何ものかに対して……。若しこれが今問題の任命制の教育委員にでもなれば、もっとひどいのではなからうか。

○ 新陳たいしやは人生の常かも知れない。だが、そこに感傷のつきまとうのも人間の姿であろう。しかし、それにとらわれていてはならない。前進のみがそれをいたわってくるであろう。(池田生)

懸賞論文・作文募集中

(六月五日迄)

詳細四月号参照のこと

産業教育研究連盟編

職業・家庭科教育の展望

定価一五〇円
送料一六円

本書は産業教育の意義とその視点から中学校の職業・家庭科の性格を規定し、進んで教育内容を選定している。それと共に過去の歩みを展望する資料として、昭和二十二年の指導要領以来、最近の中央産教の第二次建議に至る八資料をとり入れている。特に占領下におけるオスボーン、ネルソンより提示された文書は貴重な資料である。更にアメリカのインダストリアル・アーツ、ソヴェトの総合技術教育の資料も取入れてある。

ソヴェトの新教科課程

(価二十五円)
送料八円)

ソヴェト文部省発表のもの。小学校、七年制学校及び中学校の一九五五年から五六年度の新教科プラン、教科課程の概要を知ることができる。労働課程が大きく出ている点が注目される。

第一・第二群の設備基準

(昭和30年8月特集号・価五〇円 送料四円)

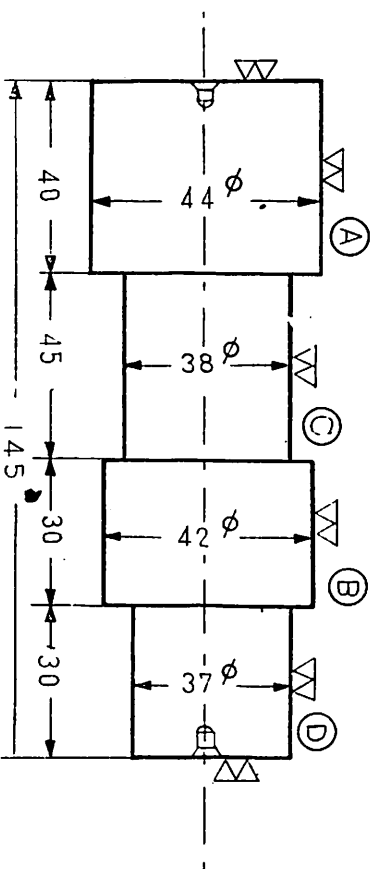
昨夏産業教育研究大会の資料で、農業的分野(中村邦男)工業的分野(鈴木寿雄)の設備基準を示し、工業的分野の学習指導法(稲田茂)及び海外の施設資料が入れている。

▽以上各冊子とも、必ず前金にて定価に送料をそえて、産業教育研究連盟(振替東京七七七一七六番)へ又は現金封入で注文のこと。

段付仕上削り

記号	No. 2
基本	旋1~2

材料	FC 14 No. 1
時間	2回 3時間



学 習 目 標	注 意 事 項
<ol style="list-style-type: none"> 1. 段付切削法 2. 仕上削り法 3. ヘール・パイトとやすりペーパー仕上との比較 4. ノギスによる寸法測定 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 切削速度並びに送り上の注意 (毎分 140 R. P. M 以上にあげる) 2. 締付フレンチによる締付上の注意 3. ヘール・パイトの取付並びに切込上の注意 4. やすり使用上の注意 5. カソド・ペーパーの種類と選び方, 使用法 6. センターの注油上の注意

取付方法	工 作 順 序
センター仕事 スケール (12時) 外バース 荒削りバイト 仕上げバイト 細目やすり (8時平) サンド・ペーパー (No. 0~000) ケラー (2時) 片刃 バイト 締付 ブラシ ノギス モンキーレンチ (6時)	<ol style="list-style-type: none"> 1. No. 1によって加工したる工作物の取付け, 12時ケラー使用 2. 仕上げバイトの取付け 3. ①を 44φ に仕上げる (+0.2) 4. 工作物をふりかえ, 締付ブラシを使用し取付ける 5. 荒削りバイトを取付ける 6. ③を 43φ に荒削ずる 7. ④を 39φ に荒削ずる 8. ⑤を 38φ に荒削ずる 9. ③④⑤を寸法通り仕上げる (+0.2) 10. 片刃バイトを取付ける 11. 片刃バイトで端面を直す 12. ③④をやすり仕上げする 13. ③④をペーパー仕上げする 14. 各仕上面の比較 15. 寸法測定
備 考	

文部省改訂要綱による

【昭和 32 年度用】

新選職業・家庭科教科書 全 12 冊

産業教育研究連盟編 (文部省検定済)

都市向男子各学年用 (3 冊) 農村向男子各学年用 (3 冊)

同 女子 // (3 冊) 同 女子 // (3 冊)

- 各群にわたり男女共通教材をとり入れ、都市男女・農村男女により傾斜をもたせ、文部省案の教材を網羅した編集
- わかりやすく、扱いやすく、編者の研究を遺憾なくとり入れて、技術の正確を期している。
- 美しい口絵、文中のさしえ、写真など豊富にして親しみやすく編集されている。

御採用は立川図書版を! (展示会に出品)

現場の執筆陣を中心に実際案を示す

教師用指導書 (B 倍判 250 ページ) (32 年刊行)
(上製予定価 550 円)

—採用校へ1冊宛無代贈呈—

従来の机上プランではない。全国実践家 100 余名の執筆により、それに産業教育研究連盟の教授陣が検討を加えてできたもの。極めて実際の、しかも理論的に正確を期する予定である。

発行所

東京都中央区銀座東 5
電話銀座 (54) 0016 番

立川図書株式会社

職業と教育 (既刊分)

○同 十月号

産業教育の本質と実践の方向 (池田種生)
中学校におけるポリテフニズム (長谷川淳)
ソヴェト自然科学の教育(2) (杉森 勉)

○同 十一月号

産業教育と国語教育 (国分一太郎)
ソヴェトの自然科学 (3) (杉森 勉)

○同 十二月号

第二次建議を中心の特集号
転換する職業・家庭科 (座談会)
(宮原誠一・厚沢留次郎・鈴木寿雄その他)

○昭和三十年一月号

数学教育における問題点 (遠山 啓)
歴史的使命は終わった筈 (林 勇)

○同 二月号

第一次建議の説明 (長谷川淳)
第二次建議の説明 (鈴木寿雄)
全国指導主事会議質疑応答

○同 三月号

工業技術教育の歴史的構造 (山崎昌甫)
リングの学習指導 (海外資料)

○同 五月号

女教師の実態 (西尾幸子)

アメリカの家庭科教育資料

養魚場の見学 (海外資料) (杉森 勉)

○同 六月号 (特集)

機械及び工作室における
管理運営の研究 (群馬県坂上中学校)
実践の本姿を見出す (鈴木寿雄)

○同 七月号

混同されやすい類似概念 (清原道寿)
第二群の学習指導 (杉田正雄)
第一群関係について (中村邦男)

○同 九・一〇月号

職業指導実践の指標 (後藤豊治)
石けん製造の学習指導 (杉浦弘幸)

○同 十一月号

学習指導計画について (土井正志智)
青写真のやきつけ法 (菅谷茂久)
化学教材の学習指導 (海外資料)

○同 十二月号 (特集)

文部省改訂要綱批判号
清原道寿・長谷川淳・後藤豊治
中村邦男・池田種生・大口徹二

○昭和三十一年一月号

職業科教員養成問題 (吉田 元)
本校における職業指導 (有田 稔)
ミンソンの故障と原因 (白鷺中学校)

○同 二月号

第五群の教育内容について (池田種生)
文部省改訂案第五群 (資料)

産業教育は躍進する (稲垣恒次)

機械関係の語いの調査 (矢野敏雄)

○同 三月号

卒業生は職場でどうしているか (浜松信之)
養蚕の学習は可能か (根岸正明)
産業教育の基底 (高龍中学校)
前近代性より脱却 (大垣内重男)

○同 四月号

現場教師は疑問する (古屋正賢)
改訂案成立までの経過 (稲田 義)

トマトの栽培 (集案) 春日部中学校

機械学習指導案(1) (吉田 元)

以上各冊二十円 (送料三冊まで四円) 号名
明記、前金申込のこと。切手代用でも可

昭和31年5月1日印刷
昭和31年5月5日発行 (定価二〇〇円)

編集兼 池田種生
発行者

東京都中央区銀座東五ノ五

発行所 産業教育研究連盟

振替東京七七一七六番
電話銀座(54)二九七四